

(每月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十四發行)

縣報 第二百七十八號

明治卅六年十二月三十日

和歌山縣

公文

○和歌山縣令第九十五號

明治三十六年十二月和歌山縣令第九十二號小學校教員用圖書表中等常小學校ノ部修身科ニ
左ノ圖書ヲ追加ス

明治三十六年十二月二十五日

和歌山縣知事 伯耆 清 兼 家 敬

記

尋常小學校修身掛圖

第十一條 營業者修繕用ニ用フル分銅ニ差狂ト生シタリト是考シタルトキハ速ニ臨時檢定ヲ受ケルベシ

第十二條 營業者事故ノ爲メ其ノ業務ニ從事セザルカ又ハ營業所ニ不在ノトキハ相當代理人ヲ定メ當廳ニ届出ス可シ

第十三條 營業者事故ノ爲メ三十日以上休業スルトキハ其事由ヲ當廳ニ届出スルベシ

第十四條 營業者ハ開業ノ前其ノ設計書寫登通ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出スルベシ但シ設計變更ノ際可ク受ケタルトキモ亦同シ

第十五條 營業者ハ様式第二號乃至第五號ニ依リ其營業ニ該當スル帳簿ヲ備ヘ日々其ノ營業ノ事項ヲ明細ニ記入スルベシ

第十六條 營業者ハ開業ノ前豫メ販賣價格ヲ定メ當廳ニ届出スルベシ其ノ改定加増シタルトキハ直ニ届出スルベシ

第十七條 營業者ハ差狂ト生シ若シハ持造ニ異狀ヲ生シタル度量衡器又ハ度量衡類似器物ヲ販賣スヘカラス

第十八條 明治三十六年十二月三十日農商務省令第十號度量衡法施行細則(以下單ニ施行細則ト記ス)第五十七條ニヨリ届出タナストキハ左ノ事項ヲ詳記シタル設計書ヲ添付スルベシ

一 修繕場ノ位置(圖面添付ノリ)

法律第二百七十八條 明治三十六年十二月三十日 第三種郵便物認可 三

二 修繕セントスル桿秤ノ種類

三 秤架ノ種類

四 分銅ノ種類及個數

五 機械ノ種類

但前項ノ設計ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ營業ヲ廢止シタルトキハ直ニ當廳ニ届出スルベシ

第十九條 施行細則第五十八條ノ届書ニハ左ノ事故ヲ詳記シ即日發送當廳ニ差出スルベシ

一 桿秤ノ種類物質記載年號番號

二 差狂ト認メタル原由

三 使用者ノ職業及住所氏名

第二十條 營業者度量衡器ノ修繕ノ委託ヲ受ケ其修繕ノ見込ヲキモノト認メ委託者ニ返還シタルトキハ直ニ所有者ノ職業住所氏名并ニ器物ノ種類記載年號番號及返還ノ事由ヲ詳記シ當廳ニ届出スルベシ

第二十一條 營業者度量衡ノ修繕(桿秤ノ取替及錘絲ニシテ金)ヲナシタル者ハ檢定ヲ受ケタル後ニアラザレハ之ヲ委託者ニ交付スヘカラス前項ノ器物止ムヲ得ザル場合ニ於テ檢定ヲ受ケザル儘ニ之ヲ委託者ニ交付シタルトキハ其事由及器物ノ種類記載年號番號并ニ所有者ノ職業住所氏名ヲ直ニ當廳ニ届出スルベシ

第二十二條 營業者ハ前年四月一日ヨリ其年三月三十一日ニ至ル一ケ年間ノ營業實況表ヲ

様式第六號乃至第八號ニヨリ毎年四月十五日迄ニ當リ若シテ檢出スヘシ
 但シ職業ノシテトキハ免許狀返納ト同時ニ前項ノ營業實況表ヲ提出スヘシ
 第二十三條 製作修理又ハ輸入シタル度量衡器ハ左ノ種類ニ依リ符號ヲ定メ毎年順次番號
 ナ付ス可シ

- 一 度量器
- 一 金 屬 製
- 一 木、骨、象牙製
- 一 麻 製
- 一 竹 製
- 一 量 器
- 一 金 屬 製
- 一 玻 璃 製
- 一 木 製
- 一 斗 櫃 製
- 一 衡 器
- 一 天 秤
- 一 分 銅 秤
- 一 臺 秤

縣報第二百七十八號 明治三十六年十二月三十日 第三種郵便物認可 四

- 一 金屬桿秤
- 一 骨製桿秤
- 一 木製桿秤
- 第二十四條 度量衡器ノ檢定ヲナスニ當リ檢定後忽チ差狂ヲ生ズルノ虞アリト認ムル器物ハ其ノ檢定ヲ中止シ一ヶ月以内檢定所ニ留置スルコトアル可シ
- 第二十五條 古物商ハ度量衡器ヲ販賣ノ目的ヲ以テ店頭ニ置ク可カラズ
- 第二十六條 使用者ハ其使用スル度量衡器ニ異狀ヲ呈スルカ、又ハ差狂ノ疑アルトキハ直ニ檢定ヲ請求スベシ
- 第二十七條 外國ノ度量衡器ヲ營業上ニ使用スル者ハ其種類個數ヲ詳記シ所轄市町村長ヲ經テ管轄ニ届出スベシ
- 第二十八條 施行令第九條ニヨリ度量衡器ヲ檢定ノ爲メ提出シ命ヲ受ケトキハ十日以内ニ其ノ指定ノ處ニ差出スベシ
- 第二十九條 使用者ハ左ノ事項ニ該當スル度量衡器ヲ營業ノ場所ニ置キ又ハ行商等ニ携帶スベカラズ
 - 一 度量衡ノ効力ヲ失ヒタルモノ又ハ印ノ識別ヲ難キモノ
 - 二 度量衡器ニ差狂ヲ生シタルモノ
 - 三 度量衡器ニ附着物其他ノモノ重量尺量ニ増減ヲ生シタルモノ
 - 四 度量衡器類似ノモノ

第三十條 度量衡ニ關シ便宜上組合又ハ仲間規約及ビ之ニ關スル團體ヲ組織シタルトモハ
連ニ當座ニ届出ス可シ

第三十一條 製作者修繕者ハ施行規則第二十八條ノ裨及鑄ニハ「定錢」ノ文字ヲ增録スルヲ
貳拾六頁以上ノモノニハ「大」以下ノモノニハ「小」ノ文字ヲ用ユベシ

第三十二條 第七條第二項、第十二條乃至第十四條、第廿一條第二項、第廿七條乃至第廿
九條ニ違背シタルモノハ當座以上當座九拾五錢以下ノ材料ニ處ス

第三十三條 第十五條、第十七條、第十九條、第二十條及第二十五條ノ規定ニ背キタル者
ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰ニ處ス

附 則
第三十四條 本期ハ明治三十七年一月一日ヨリ施行シ明治三十一年二月和歌山縣令第十號
ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十五條 本令施行ノ際ニ限リ第十六條及第十七條ノ屆書ハ明治三十七年一月三十一
日限リ提出スベシ

樣式第一號
縦 四尺五寸
（免許狀番號ヲ記ス）

尺 一
何 器 製 作 (修 護) (販 賣) 所
縣 市 町 村 大 字 番
何 番 號

縣報第二百七十八號 明治三十六年十二月三十日 第三種郵便物認可 五

樣式第二號

種 別		年 月 日	卸 賣 個 數	實 價	販 賣 者 ノ 住 所 氏 名

樣式第三號

原 製 作 地 名	委 托 者 住 所 氏 名	形 狀	物 質	種 別	修 護 個 數	修 護 料

樣式第四號

○和歌山縣令第九十七號

炭疽發生。付左記ノ區域ヲ豫防線トシ牛馬羊豚ノ出入往來ヲ停止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十六年十二月二十八日

和歌山縣知事 伯耆 湯淺 家 敬

一那賀郡田中村大字花野

東 竹川左膳居宅西小路限

西 北口野次郎居宅横小路限

南 海上川筋限

北 紀和鐵道線路限



郡役所
警務署
全分署
市役所
町村役場

明治三十一年二月廿九號度量衡取締ニ關スル事務心得左ノ通り改正ス

明治三十六年十二月廿六日

和歌山縣知事 伯耆 清 橋 家 秋

度量衡取締ニ關スル事務心得

- 第一條 警察署及町村長ハ毎年二回以上其ノ所轄内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ爲スベシ
- 第二條 度量衡器取締期間ヲ縣廳ヨリ告示シタルトキハ所轄郡長ハ其ノ部内ニ於ケル町村役場臨檢日割ヲ定メ之ヲ告示スベシ
- 前項ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ期日内ニ遺漏ナク營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ノ檢定ヲ受シムベシ
- 第三條 度量衡檢定官吏及市町村長取締ノトキハ必ず肩票ヲ携帯スベシ
- 但証票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ具シ速ニ知事ニ届出再發又ハ引換ヲ請フベシ

明治三十六年十二月三十日

第三種郵便物用

第四條 警察署長分署長ハ營業者ヨリ差出タル設計書ヲ保存シ取締ノ參考ニ供スベシ

第五條 警察官及市町村長ハ度量衡器ノ營業者使用ニ對シ左ノ各項ニ付テ取締ヲ爲スベシ

營業者

- 一 設計書記載事項ノ整否
- 二 諸標簿ノ整否
- 三 衡器販賣者ニシテ無届標秤ノ取締條系ノ修繕ヲナスモノアルヤ否
- 四 設計書記載以外ノ度量衡器ヲ製作シ修繕シ又ハ販賣セザルヤ否
- 五 檢定ヲ受ケザル度量衡器ヲ販賣セザルヤ否

使用者

- 一 皮器ノ一端又ハ兩端磨滅シ若ハ縱横斷面ニ全長ニ長短ヲ生シタルモノナキヤ否
- 二 目盛ノ磨滅又ハ目盛ノ標識毀損或ハ構造ニ異狀ヲ呈シタルモノナキヤ否
- 三 量器ノ内面ニ附着物若ハ口縁磨滅シテ容量ニ減少ヲ生シ又ハ構造ニ異狀ヲ呈シタルモノナキヤ否
- 四 斗籠ノ狂撻シ若ハ其側面凹凸シ又ハ卷金ノ割落シ遊在アリト認ムベキモノナキヤ否
- 五 衡器ノ直点ニ離テ懸ケ桿ノ水平ヲ得ス若ハ視ノ一致セス又ハ桿ノ狂撻シタルモノナキヤ否
- 六 支点直点ノ器具、鉤、皿、卷金、端金、破損シ又ハ取締條系若ハ皿紐ノ損壞ヲ結合

七 筒器ノ指針屈曲シ又ハ分銅、鐘、増鐘、附録臺ニ鉄損ヲ生スルカ其ノ他携過ニ異狀ヲ呈シタル者ナキヤ否

第六條 度量衡法第十五條度量衡器施行細則第六十一條乃至第六十三條及本縣取締規則第三十二條第三十三條ニ該管セシモノト思科シタルトキハ直ニ告發ノ手續ヲ爲シ即日其告發書ノ寫ヲ添ヘ知事ニ報告スベシ

第七條 警察署長分署長ハ度量衡ニ關スル違背罪處分ヲ爲シタルトキハ判決確定シタル後其ノ原本ヲ添ヘ知事ニ報告スベシ

第八條 警察官及市町村長第一條ノ取締ヲ行ヒタルトキハ十日以内ニ左ノ様式ニ據リ其ノ實況ヲ知事ニ報告スベシ

但町村長前項ノ報告ヲ爲ストキハ所轄郡長ヲ經由スベシ

第九條 郡長ハ所轄町村長ノ取締事務ヲ監督スベシ

様式 明治何年第何回度量衡検査實況表

臨 檢 日 數	自何月何日 至何月何日	何日間	取締主任 氏	名
---------	----------------	-----	--------	---

縣報第二百七十八號 明治三十六年十二月三十日 第三編郵便物部 十

備 考	檢 示 人 員 數	及 違 犯 者 告 發 人 員 數	及 檢 査 人 員 及 員 數	使 用 者 ニ 對 ス ル 檢 査 人 員 及 員 數
檢示ノ標準ヲ各器ニ付キ記載ス可シ	度量器 何人	度量器 何人	度量器 何人	度量器 何人
	何人	何人	何人	何人
	何人	何人	何人	何人
	何人	何人	何人	何人
	何人	何人	何人	何人

明治何年第何回度量衡器検査ノ實況書記ノ通ニ依也

明治 年 月 日

何署長(分署)長
何市 長
何郡町村 長

何 之 誰 印

知 事 宛

○和歌山縣告示第四百四十一號
管轄區内ニ假設セシ和歌山縣水産試驗場ヲ指定シ西牟婁郡串本町ニ移シ明治三十七年一月十一日ヨリ開始ス

明治三十六年十二月廿五日 和歌山縣知事 伯耆 清 棧 家 敬

○和歌山縣告示第四百四十二號

明治三十六年十一月 農商務省令第十號度量衡法施行規則第三十一條ニ依リ度量衡器乙種檢定書ヲ明治三十七年一月ヨリ本縣管内ニ設置シ和歌山縣度量衡器檢定所ト稱ス

明治三十六年十二月廿六日 和歌山縣知事 伯耆 清 棧 家 敬

○和歌山縣告示第四百四十三號

明治三十六年九月三十日當縣日高郡選舉區ニ於テ舉行シタル縣會議員選舉ニ關シ同郡矢田村伊奈久歳ヨリ異議申立ニ對シ縣選舉會ニ於テ左記ノ通り決定セタリ

明治三十六年十二月廿五日 和歌山縣知事 伯耆 清 棧 家 敬

決定書

和歌山縣日高郡矢田村大字小畑
三千二百九十七番地平民 農

異議申立人 伊 奈 久 歳

右異議申立人ヨリ明治三十六年九月三十日執行縣會議員ノ選舉ニ關シ本縣知事ニ異議ノ申

立アリタルヲ以テ府縣制第三十四條ニ依リ縣選舉會ニ之カ差遣ヲ送ラル處

申立人申立ノ要旨トスル理由ニアリ其一ハ明治三十六年九月三十日ニ舉行セシ日高郡選舉區ニ於テ選舉シタル本縣會議員選舉ハ選舉長タル同郡長ニ於テ本縣知事ノ發シタル明治三十二年七月訓令甲第三號縣會議員選舉取扱規則中其第九條ニ投票函ヲ閉鎖スルトキハ直ニ其第二蓋ノ錠ヲ卸シ其第一蓋ノ錠ハ立會人ニ於テ保管シ第二蓋ノ錠ハ投票所管理者ニ於テ保管スヘシト規定シアルニ拘同郡長ハ該選舉前即同年九月廿六日付ヲ以テ各町村役場ニ縣會議員選舉投票其他ノ手續ニ關シ注意シタル事項中外蓋錠ハ立會人内蓋錠ハ管理者保管スヘシト通牒シタルヲ以テ同郡長ニ於ケル投票所管理者ヲ以テ投票函ノ封筒保管方ヲ訓ラシメタリ其二ハ選舉長ニ於テ各投票所ヨリ到着シタル投票函ト共ニ投票立會人ノ持参セシ投票函封筒ヲモ開票ノ前日マデニ悉ク受領シタル等ハ選舉ノ規定ニ違背シタルモノナレハ府縣制第三十五條ニ依リ該選舉ハ全部無効ナルノ決定アラゾコトヲ要求スルト云フニ在リ依テ決定ノ理由ヲ説明スル左ノ如シ

本件申立ノ要旨ノ一タル選舉長カ通牒ヲ以テ投票函ノ封筒保管方ヲ選舉區ノ各町村役場ニ注意シタル事實ハ前記本縣知事ノ發シタル訓令ニ違ヒタルハ同郡長ノ不注意タルヲ免レザルモ畢竟縣知事ノ發シタル右訓令ナルモノハ要之選舉事務執行者ヲ以テ法律規定ノ範圍内ニ於テ取扱手續ヲ一定セシメシカ爲ニ訓示シタルニ止マリ申立人ノ云フカ如ク外部ニ對シテハ府縣制ノ規定ト均シキ効力ヲ有スルモノニアラザルノミナラス外部部即一般選舉人ニ對シテハ毫モ効力ヲ有セス從テ假令郡長カ發シタル通牒中右訓令ニ反スル廉アリシモ選舉ノ規

定上何等違フ處ナキ限リハ之ヲ以テ府縣制第三十五條ヲ適用シ該選舉ヲ無効トスベキ事由トナラズ又第二ノ理由タル選舉長カ開票ノ前日迄ニ投票函并ニ其封ヲ投票所管理者及立會人等ヨリ受領シタルハ選舉長カ府縣制第二十一條ノ規定ニ依リ投票函及投票録ト共ニ二個ノ封ヲ受領シタルハ當然ノ手續ニシテ申立人ノ云フカ如ク選舉長ニ於テ開票前日ニ右論ヲ受領シタルヲ以テ選舉ノ規定ニ違背シ且選舉ノ結果ニ異動ヲ生セシメタリト云フノ事由ハ憲モ之ヲ認ムベキナレ

右ノ理由ニヨリ決定スルコト左ノ如ク

本年九月三十日高郡ニ於テ舉行シタル縣會議員ノ選舉ハ無効トスヘキモノニアラス

○和歌山縣告示第四百四十四號

左記ノ者死亡ニ依リ本日和歌山縣產廢名簿ノ登錄ヲ取消ス

明治三十六年十二月廿六日

和歌山縣知事 伯崎 清 棧 家 敬
 日高郡帶着村大字船津九十八番地
 和歌山縣平民 西 井 少 由

○和歌山縣告示第四百四十五號

縣下那賀郡田中村大字花野松尾清一飼養牛一頭本月二十五日炭疽ニ罹リ全二十六日斃死セリ

明治三十六年十二月二十八日

和歌山縣知事 伯崎 清 棧 家 敬

縣報第二百七十八號 明治三十六年十二月三十日 第三編農務部認可 十二

○町村長ノ異動

那賀郡岩田村長 榎 本 亮 二
 右十二月廿五日認可
 有田郡石垣村長 中 井 秀
 右十二月廿六日認可

○觀 測

明治三十六年十二月廿五日ヨリ三日間當地氣象概況

種 類	月 日		月 日		月 日		月 日	
	前 年	本 年	前 年	本 年	前 年	本 年	前 年	本 年
平均氣壓	七五七耗〇	七六六耗九	七五七耗四	七六五耗九	七六〇耗九	七六八耗一		
平均氣溫	六度七	五度三	六度九	五度二	七度六	五度三		
最高氣溫	一三度〇	九度〇	八度二	一〇度三	九度八	七度八		
最低氣溫	〇度五	〇度三	五度八	〇度五分	五度五	〇度五		

